

タイトル: 2021 年度教育セミナー (第 17 回)

日時: 2021 年 9 月 16 日 (木) ~19 日 (日)

オンライン開催

ポスター発表

「イスラーム金融におけるデリバティブとそれを巡る法的議論」

山口潤 (京都大学大学院アジア・アフリカ研究科)

私が本セミナーに参加したのは初めてで、それゆえ最初は勝手が分からず緊張していましたが、最後までしっかり参加することができ、また、対面ではなくオンラインの参加であったことは少し残念ですが、それでも充実した諸発表・講義を聞けることができました。AA 研の先生方、並びに発表者の方々、本当にありがとうございました。今回のセミナーには指導教員からお声がけいただき、ポスター発表者としても参加させていただきました。

私は大学院でイスラーム金融を研究しています。それゆえ、普段から関心を持って触れているのは現代のイスラームや法と経済の関わりなのですが、一方で、所属している大学院では分野横断的な見方を要求してくる場面がとて多いです。今回の中東・イスラーム教育セミナーはとりわけ広い視点を必要とする内容であり、全体としては歴史系が多かったと感じるものの、普段以上の興味の幅と熱心さを持って聞く必要があると感じました。本セミナーと、その中での一連の講義を通して、これから地域研究にコミットしていくことに対する姿勢がイメージできるようになりました。また、単純に、自分の知的好奇心を大きく刺激してもらい、楽しむことができました。特に、渡邊祥子先生によるナショナリズム研究の事例を取り扱ったスライドは、非常に興味深かったです。かつてのイスラーム研究で見られたナショナリズム論が、政治学的・文化人類学的見地の進化に伴い理解のなされ方が変化してきたことは、先行研究と定説の重要性を逆説的に示しており、自分も肝に銘じる必要があると思いました。

また、参加者同士の交流にも刺激を受ける部分が多々ありました。私自身のポスター発表、「イスラーム金融におけるデリバティブとそれを巡る議論」は、自分の発表がまずかったというせいもあってか、正直あまり盛り上がりはなかったのですが、発表が終わった後の、専門分野を近しくしている学生の方々と、イスラーム金融をテーマにした、雑談を交えた議論はとても有意義なものだと感じました。特に興味深かった議論は、現代のインドネシアにおけるイスラーム金融の実際の受け止められ方についてと、タカーフルとガラルに関する議論です。このような話をする事ができる仲間と話す機会ができただけでも、値千金の価値があったと思います。また、学生仲間だけでなく、先生方によるアドバイス、及び、ポスター発表に対するその後のコメントも参考になりました。本テーマに対する新たな研究の視座の獲得をすることができて、とても為になりました。

本セミナーのために準備してくださった先生方、及び、発表してくださった方々、そして

私の発表を聞いてくださった方々、大変ありがとうございました。